



菱脇合戦古戦場



菱脇町の新開橋から古戦場と金丸城（黄丸）を望む

合戦地：石川県羽咋市菱分町、鹿島郡中能登町金丸・金丸出町・大町

対戦者：長連龍 vs. 温井景隆・三宅長盛

軍勢：長軍（織田方）

温井・三宅軍（七尾方）

八代越中、温井筑前、八代肥後、古浦屋新助、成田武安、山荘監物

開始年：天正8（1580）年6月

争いの火種は天正5年（1577）、越後の上杉謙信が能登畠山氏の居城七尾城を陥落した時に点く。畠山氏重臣の遊佐続光・温井景隆・三宅長盛が、同じく重

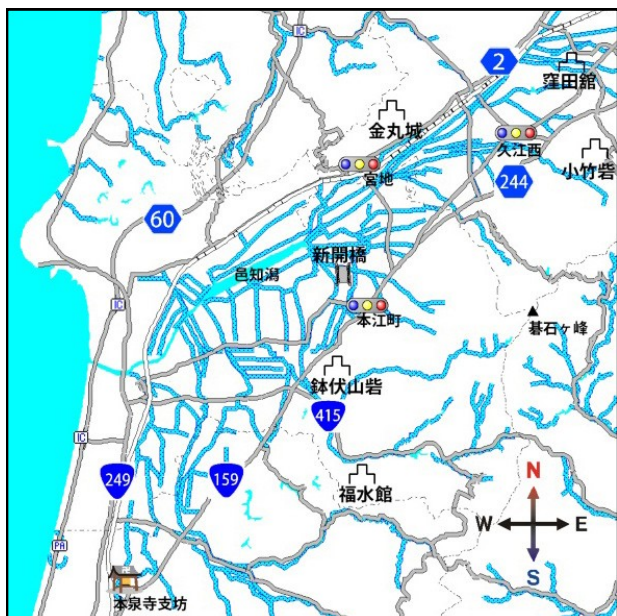
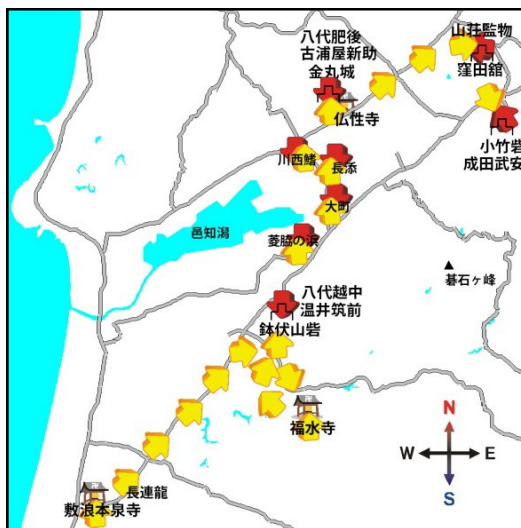
臣で抗戦を主張する長続連の一族を謀殺して謙信に内応したことによる。続連の三男連龍は安土の織田信長に援軍を求めに行っていたため難を逃れた。翌6年3月上杉謙信が急逝、上杉氏の能登支配力が低下すると温井らは七尾城代鯉坂長実を翌年追放してしまう。織田方の助力を得て、能登奪回を図る連龍が羽咋郡の敷浪本泉寺に布陣したのが天正7年（1579）の冬。翌年3月9日、連龍は羽咋郡福水の丹治山福水寺に本営を移した。これに対し、七尾城の温井景隆・三宅長盛兄弟は、本郷（本江）の鉢伏山砦に八代越中・温井筑前、東馬場の窪田館（東馬場砦）に山荘監物、小竹砦に成田武安を配し、主城の金丸城には八代肥前・古浦屋新助が入って麓の仏性寺（寺家）の坊舎を要塞化して備えた。

同（天正8）年5月5日、連龍は鉢伏山砦を攻めて陥れる。

6月9日、七尾方は鉢伏山砦の奪回を図って金丸城から軍勢を進め、鉢伏山を守っていた鈴木因幡を敗走させ、転進して邑知瀨畔の菱脇で長軍と激突する。最新鋭の足軽鉄砲隊を擁する長軍は菱脇から大町、長添、川西鱒と

七尾方の軍勢を次々に撃退し、ついに金丸城を陥れて寺家を放火した。その勢いに乗じ長軍は窪田館、小竹砦に兵を進めたが、いずれの守将も城を捨てて七尾に敗走した。ここに「菱脇の戦い」といわれる合戦が終結する。

同年8月、連龍は七尾方に奪われていた長氏の居城穴水城を奪回する。9月1日に信長から能登攻略の恩賞として鹿島半郡（能登半郡）を与えられ、連龍は福水を居城（福水館）することを認められた。



古戦場カードに関する最新情報・お問い合わせ
北陸城郭プロジェクト（フリー・スタイル有限会社）
〒929-0335 石川県河北郡津幡町井上の荘3-9
TEL. 076-204-6046 FAX. 076-289-3943
E-MAIL. contact@j-sampo.com
ホームページ城郭さんぽ <https://www.j-sampo.com/>